

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社

代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。梅雨空が少なく、気温が30℃を超える日々が続く今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は、先日行われた国際大会【ネーションズリーグ】で見事、銀メダルに輝いた日本女子バレーボールチームに注目しました。日本は、この大会の予選ラウンドで6大会連続のオリンピック出場を決め、タイで行われた決勝でイタリアと対戦しました。セットカウント1対3で敗れましたが、キャプテンの古賀選手や石川選手の活躍により、世界ランキング1位のブラジルを撃破す

るなど、チームとしての成長を感じさせるプレーで、パリオリンピックに弾みをつける戦いでした。激戦を終えたキャプテン古賀選手は、『他のチームに比べて身長が小さいチームが銀メダル獲得という結果を出せた事は、本当に誇りに思っている』とコメントしました。また日本の眞鍋監督は『決勝に行けたということは選手たちのいい経験になったと思う。オリンピックに向けて次なる目標に挑戦していきたい』とコメントしていました。どんな状況でも、常に挑戦し続ける姿勢に胸が熱くなりました。

【挑戦！ピンチをチャンスに！】私の好きな格言の一つです。日々この言葉を胸に、多くのご利用者様一人一人に寄り添ったサービスをご提供できる様、精進して参る所存でございます。蒸し暑い日が続く今日この頃ですが、皆様くれぐれもご自愛ください。

サンライズの物語

お母様の最期に—— ご家族様の心の支えとなった物語



その方は、癌末期で自宅へ戻り生涯を自分らしく全うした方でした。

最初は訪問介護の排泄介助を拒否されており、看護師さんが着替えの交換を1回/週程度されていたのですが、息子さんの勧めもあり訪問介護を受け入れたのです。

そんな中、自宅で息子さんに看取られ生涯を閉じられました。永眠された当日息子さんから電話があり「介護職員の皆様の手際の良さと母への声掛けが素晴らしく本当に感謝しています」との内容でした。

唯々お悔やみを申し上げたのでした。そんな時息子様からのお礼状が弊社へ届きました。

内容は以下の通りです。※一部抜粋しております。

介護士さん達は皆さん明るく笑顔を絶やさず、一生懸命で手際よく仕事をして頂きました。慣れてくると、母も私もドアベルなるのを今か今かと心待ちにしていました。病のことで不安ばかりでしたが、介護士の親切の絆を感じられ、それが心の支えにもなり本当に助かりました。

皆様、厳しいときもあるかも知れませんが、社会に役立つ大切でやりがいのあるお仕事なので、どうかお体に気をつけながらご活躍いただきますように心からお祈りします。多くのご不自由な方々が皆さんの笑顔を心待ちにしています。

このようなお手紙を息子様より賜り、お母様の最期を看取るまでの辛く、悲しい時間に少しでもご本人様やご家族様の心の支えとなったことに弊社の介護職員一同胸が熱くなりました。

私たち介護職とまだ見ぬご利用者様との出会いは何らかの必然性に導かれたのではないかと感じています。

サンライズのデイサービス陽光だより



お誕生日 皆さんでお誕生日の歌を歌って誕生日カードをプレゼントさせていただきました。



壁紙制作 おはながみであじさいの花を作り画用紙に貼り付けて作りました。



壁紙制作

おはながみであじさいの花を作り画用紙に貼り付けて作りました。



NEWS 今月のニュース

中1で合格した難関英検1級に再挑戦！新潟大学附属新潟中3年生「先端技術で介護に役立つものを開発したい」夢に向かって語学力磨き続ける

新潟大学附属新潟中3年の林華宇（りんかう）さん（14）＝新潟市中央区＝が、難関の英検1級に1年時に合格するなど、英語の勉強に励んでいる。ことしも実力の維持向上を図ろうと再度、1級に挑んでいる。将来は先端技術の開発分野に携わるのが目標で、夢に向かって語学力を磨いている。

林さんは新潟県柏崎市で暮らしていた中国人の両親のもとに生まれた。父親の転勤に伴い小学生から新潟市で生活している。

小学5年の夏に高校生の英検1級合格を報じる新潟日報の記事に刺激を受け、本格的に英語の勉強を始め

た。日本英語検定協会（東京）の試験は年3回ある。小5の冬に3級を受けて合格して以降、着実に合格を重ねた。1級には、中1の秋に初めて挑んだが不合格だった。「中2になる前に絶対に合格したい」と冬の試験への再チャレンジを決めた。

塾などには通わず市販の単語帳や参考書を使って独学で勉強。受験前には毎日300単語を覚えるなどして見事合格した。「必死になって頑張れる目標だったので合格できてうれしかった」と振り返った。

英語検定協会は合格者数などは公表していないが、中学生の合格について「全ての技能でバランス良く得点できないと合格は相当難しい。本人が努力された結果」とする。

ことし6月上旬には、実力を確か

めるため1級を再受験し、1次試験の結果を待っている。林さんは英検について「読解問題や2次試験のスピーチの勉強は英語だけでなく、科学や歴史の知識も得ることができるので楽しい」と話す。

英語の研究論文などを読み解くためにも、語学力アップの必要性を感じている林さん。将来について「先端技術を使って、介護に役立つものや労働力不足を解消できるようなものを開発する仕事に就きたい」と笑顔を見せた。



<新潟日報 2024/6/25 (火)>

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>